

# お知らせ

# 肝臓専門外来のお知らせ

当院にて毎週月曜日午後より**肝臓学会専門医**による**肝臓専門外来**を開始することになりました。**「肝炎ウイルスにかかっていた」、「脂肪肝を指摘された」、「脚がむくむ」、「身体が黄色い」、「尿の色が濃い」**など、お困りのことがございましたら何なりとお気軽にご相談下さい。

**【診察日】月曜日 13:00～15:00**



**担当医：井上 善博（外科）**  
**大阪医科大学三島南病院 准教授**

- 日本内視鏡外科学会技術認定医（肝臓）
- 肝胆膵外科高度技能専門医
- 日本肝臓学会専門医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本外科学会専門医・指導医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本胆道学会認定指導医
- ICD(インフェクションコントロールドクター)認定医



大阪医科大学三島南病院  
Osaka Medical College Mishima-Minami Hospital

# 肝臓専門外来を開始のお知らせ

平成20年度からB型・C型肝炎のインターフェロン治療に対する医療費助成が開始され、令和2年1月からは厚生労働省肝炎等克服制作研究事業として、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業が始まりました。

大阪医科大学三島南病院でも令和2年5月より月曜日午後に肝臓専門外来を開始いたします。

肝がん及び重度肝硬変は、慢性肝炎、肝硬変（代償性）を経て進行していく過程の最終段階とされ、その多くは肝炎ウイルス（B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス）が原因です。

当院は、肝臓学会の専門医が診察を行い、B型肝炎、C型肝炎の助成制度を利用して治療できる医療機関です。また、近年増加傾向にある脂肪肝などの診断・治療も行っています。

肝がんは早期診断・治療が重要です。そのうえ再発率が高いため、長期的に検査・治療を繰り返すことが大事で、重度肝硬変では、肝性脳症、食道・胃静脈瘤、特発性細菌性腹膜炎などの合併症の治療を繰り返すことがあります。

C型肝炎の最新治療法は目を見張る進歩があり、もっとも根本的な治療はC型肝炎ウイルスを体内から排除することです。最近ではインターフェロンを使用しないインターフェロンフリー療法（直接作用型抗ウイルス薬DAA）を適正に行うことで、ほとんどの患者様が完治を見込めるようになりました。

B型肝炎では、抗ウイルス剤（核酸アナログ製剤）によってB型肝炎ウイルスの増殖を抑えて肝炎を沈静化させ、それによりB型肝炎ウイルスを検出感度以下まで抑えることが可能になり、B型肝炎・C型肝炎ともに治療効果がえられる病気になってきています。

当院でも、最新治療法を取り入れ、副作用を考慮しながら治療を行っており、まず血液検査・腹部超音波検査【エコー検査】・CT検査を行います。そのうえで肝臓の状態を観察して最適な治療方法を決定し、丁寧にご説明することを心がけています。また、当院では助成制度を利用し治療が行えますので、B型肝炎・C型肝炎の治療はお気軽にご相談ください。

つぎに脂肪肝は、肝臓に中性脂肪が30%以上蓄積した状態を言います。原因としては、食生活の欧米化に伴い、炭水化物（ご飯・麺・パン）、果物などの糖質の取り過ぎが多いです。

現在、日本人の3人に1人が脂肪肝と言われており、肝硬変や肝がん、また生活習慣病（脂質異常症、糖尿病、心筋梗塞、脳梗塞など）のリスクを高めることが分かってきています。脂肪肝は、症状から比較的軽度な単純性脂肪肝と重症になりうる非アルコール性脂肪肝炎【NASH】に分類されます。非アルコール性脂肪肝炎を放置していると肝硬変・肝がんに進行することがあります。治療方法は基本的には減量や食事・運動療法となりますが、糖尿病、高血圧や脂質異常症といった基礎疾患がある場合は、並行して治療を行う必要があります。

肝臓専門外来は、令和2年4月より大阪医科大学三島南病院 一般・消化器外科 准教授に就任しました井上医師が担当します。当院に赴任するまでは、本院にて内山和久教授(前病院長)の指導のもと、本院・分院の肝臓疾患を中心に診察しておりました。肝臓専門医、日本内視鏡外科技術認定医(肝)および肝胆膵高度技能専門医として幅広く治療に対応します。「肝炎ウイルスにかかっていた」、「脂肪肝を指摘された」、「脚がむくむ」、「身体が黄色い」や「尿の色が濃い」など、お困りのことがございましたら何なりとお気軽にご相談下さい。

大阪医科大学三島南病院  
准教授 井上 善博